



連携事例 46

R8.3

## ジュニア防災リーダー養成プロジェクト

～ 未来に備える ミラソナ防災講座～



写真の説明（講義を受けている様子）

### ■協働パートナーの種別

NPO	地縁	社協	学校 大学	企業	行政	その他
-----	----	----	----------	----	----	-----

### ■事業運営団体

流山防災まちづくりプロジェクト(NBMP)

### ■協働パートナー

- ・流山市市民生活部防災危機管理課
- ・流山市教育委員会
- ・江戸川大学社会学部現代社会学科佐藤秀樹環境学ゼミナール(暮らしと地域環境)
- ・ガールスカウト地域で防災を考える会
- 計5団体(運営団体含む)

### ■事業費

143,633 円

### ■資金調達手段

補助金・利用料等受益者負担・運営団体負担

【事業概要】市内全小学生約 15,000 名にチラシを配布し、200 名超の応募を得た防災教育プログラム。教育委員会の協力のもと、市内 4 地区(中部・東部・北部・南部)の小学校体育館で全 4 回開催。行政・学校・地域団体・児童が連携し、「知る・備える・伝える」を実地で学ぶ。

【講座編】佐藤先生:国際的視点からの気候変動講座(地球規模の変化と私たちの行動)

防災危機管理課:地域ハザードマップ講座(自宅・学校周辺の危険と避難)

ガールスカウト:災害時トイレ講座(断水時のトイレ問題と衛生管理)

NBMP:72時間一斉帰宅抑制について NBMP 小学生メンバー:防災ポーチ講座(中身・使い方)

【体験編】新聞スリッパづくり・段ボールベッド試寝・体験避難所体験:プライベートテント/コミュニティボード

### 🌀 協働までの経緯

事業概要の丁寧な共有を起点に、各団体の専門性を生かした役割分担が自然発生的に成立。公益事業として行政との積極的連携が進み、短期間で実行力ある協働体制を構築できた。

### 🌀 主な事業内容(年間スケジュール等)

- ① 事業の企画案で流山市公益事業補助金の申請し採択される
- ② イベントの開催(7月23日、25日、28日、29日の全4回)

## 📌 主な協働パートナーとの役割分担

【NPO】流山防災まちづくりプロジェクト：主催・企画・統括

【学校大学】佐藤秀樹環境ゼミ：講座担当

【行政】

流山市民生活部防災危機管理課：講座担当・ポーチ内容物の提供

流山市教育委員会：学校との調整・チラシ配布・運営サポート

【その他】

ガールスカウト地域で防災を考える会：講座担当・運営サポート

## 📌 協働事業によって生まれた成果

### ■ 連携団体にみられた成長

共通理解：小学生参画の意義・可能性を団体間で共有。

実践力：子ども向けの説明・進行・安全管理の精度が向上。

教材改善：講義→体験→ふりかえりで教材が磨かれ、標準化の芽。

展開志向：他地域・他団体との連携・展開を見据える意識が醸成。

### ■ 連携の相乗効果

専門性の掛け合わせ：気候変動×ハザード×トイレ×防災ポーチ×UD 避難所で学びが多面化。

定着効果：講義＋体験（新聞スリッパ・段ボールベッド・テント）で理解が深まる。

主体性の喚起：児童登壇で「学び手→伝え手」へ。リーダーになりたい子どもが30人誕生。

実行基盤：行政協力で信頼性・安全性が担保され、再現可能な運営に。

## 📌 今後力を入れていきたいこと

○ジュニア防災リーダー育成イベントを継続的に実施し、リーダーたちの自主的な活動を支えるサポート体制

## 📌 コラボのコツ!!

★ コツ1：みんなの得意を活かす！

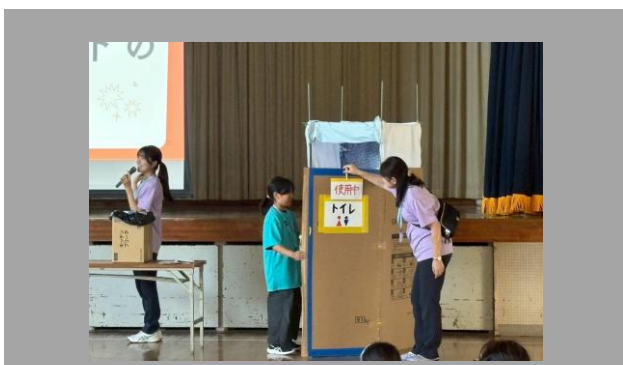
役割は「人に固定」ではなく「得意と状況」に合わせて設定。強みが光る場面を意図的につくる。

★ コツ2：柔軟に対応する！

当日変更 OK の合意を事前共有。安全・学び・時間の優先順位でその場の最適に組み替える。

★ コツ3：お互いを尊重しあう！

年齢・立場・所属の違いを価値として受けとめ、感謝を忘れずに！



### 協働事例プロフィール

【活動開始年】 2024年12月 【活動のPR手法】 広報ながれやま・チラシ配布(全小学生)

【この事業で活用した補助金】 流山市民活動団体公益事業補助金

【問い合わせ先】 担当者：矢口 電話番号：090-2661-6000

メールアドレス：2019nbmp@gmail.com